



決算説明資料

2022年度 第2四半期

2022年11月10日

日本電解 株式会社



Contents

1. 2022年度 上期決算概要
2. 2022年度通期業績見通しの修正
3. 参考資料



経営成績

- 売上高 8,775百万円 (前年同期比 12.9%減)
- 営業利益 △565百万円 (前年同期比 1,189百万円減)
- EBITDA 51百万円 (前年同期比 1,191百万円減)

業績概況

- 厳しい販売環境が続いている
 - 車載電池用銅箔：一部主要顧客にてシェアダウン、半導体供給不足の長期化
 - 回路基板用銅箔：中国スマートフォン向け需要は引き続き低迷
- 営業利益 △565百万円
 - 日米ともにエネルギー価格高騰で製造原価が上昇
 - 米国工場での設備故障等が重なり、収益を圧迫
- 生産数量は全品種合計で4,247トン (前年同期比31.9%減)



Contents

1. 2022年度 上期決算概要
2. 2022年度通期業績見通しの修正
3. 参考資料



- 売上高は、主要顧客における販売シェア低下、半導体供給不足の長期化等により前年同期比△12.9%減収
- 営業利益は、上記販売減少要因に加え、電力単価の高騰、米国子会社における設備故障等により減益

(百万円)	2021年度 上期	2022年度 上期	前年差	増減率
売上高	10,072	8,775	△1,297	△12.9%
うち 車載電池用銅箔	6,656	5,695	△961	△14.4%
うち 回路基板用銅箔	3,416	3,080	△336	△9.8%
営業利益	624	△ 565	△1,189	— *
経常利益	605	△ 583	△1,188	— *
親会社に帰属する四半期純利益	439	△ 609	△1,048	— *
生産トン数	6,235	4,247	△1,988	△31.9%

* 赤字と黒字の比較となるため、増減率の表示を省略しております。

2022年度 上期 営業利益及びEBITDA（連結ベース）



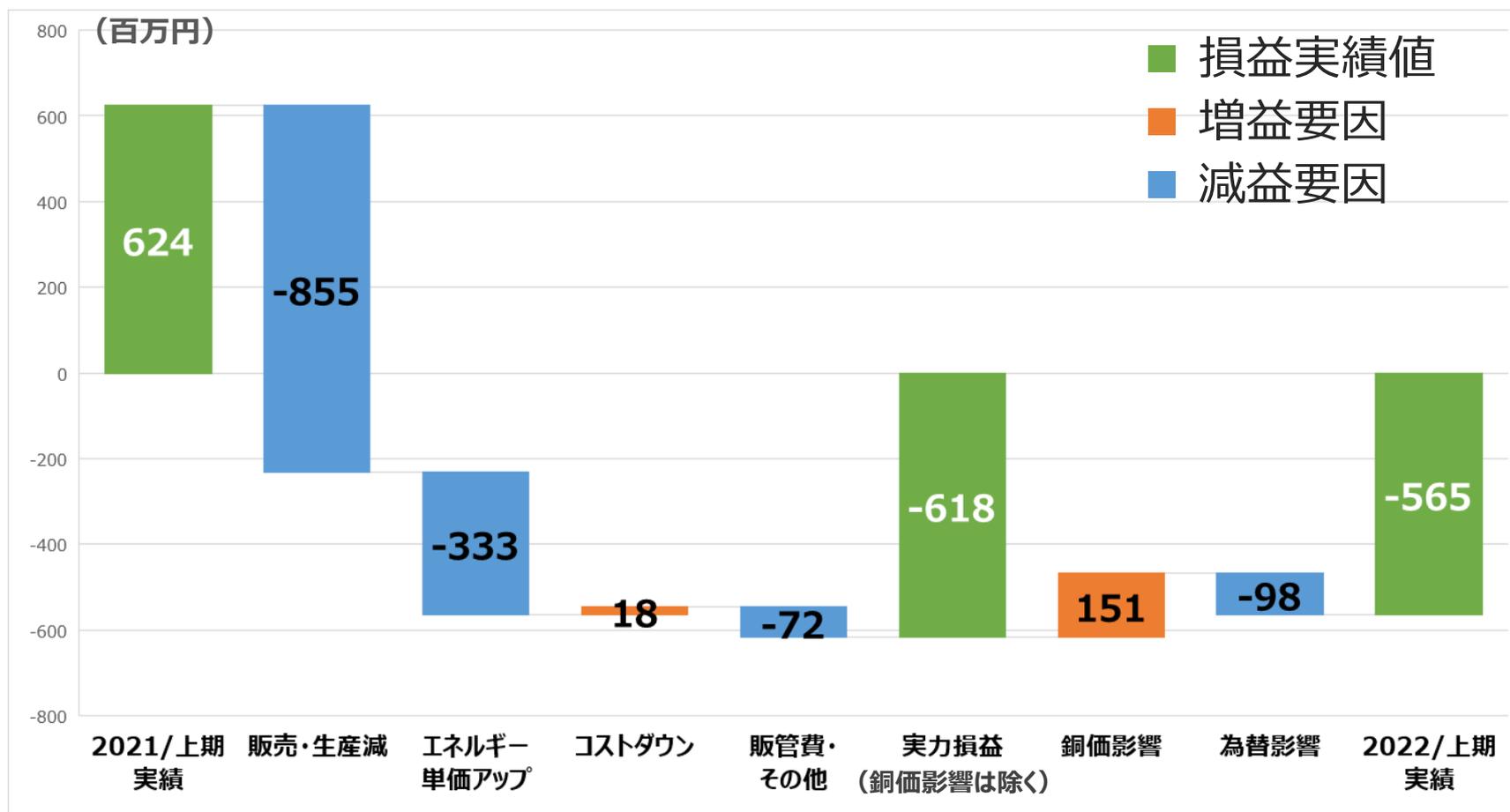
(百万円)	2021年度 上期	2022年度 上期	前年差	増減率
売上高	10,072	8,775	△1,297	△12.9%
売上原価	8,928	8,679	△249	△2.8%
売上総利益	1,143	96	△1,047	△91.6%
売上総利益率 (%)	11.4%	1.1%	△10.3%	—
販売費及び一般管理費	519	662	143	27.6%
販管費比率 (%)	5.2%	7.5%	2.3%	—
営業利益	624	△ 565	△1,189	—*
営業利益率 (%)	6.2%	△ 6.4%	△12.6%	—
減価償却費	618	617	△1	△0.2%
EBITDA	1,242	51	△1,191	△95.9%
EBITDAマージン (%)	12.3%	0.6%	△11.7%	—

* 赤字と黒字の比較となるため、増減率の表示を省略しております。

営業利益 上期 増減要因 (連結ベース)



- 販売減と生産数量減少による操業度低下 (米国工場での設備故障を含む)
- 日米ともにエネルギー価格高騰により製造原価が押し上げられた





Contents

1. 2022年度 上期決算概要
2. 2022年度通期業績見通しの修正
3. 参考資料

2022年度（通期）業績見通し修正（連結ベース）



(百万円)	8/10発表 見通し (A)	11/10発表 修正見通し (B)	修正後差額 (B - A)
売上高	18,000	17,700	△300
うち 車載電池用銅箔	11,500	11,600	100
うち 回路基板用銅箔	6,500	6,100	△400
営業利益	△500	△1,000	△500
経常利益	△800	△1,200	△400
親会社株主に帰属する当期純利益	△800	△1,100	△300
EBITDA	700	200	△500

<参考> FY2022 業績見通しの前提

	8/10発表		11/10発表 修正見通し
生産数量 :	9,200 ^{トン}	→	8,700 ^{トン}
銅相場価格* :	1,100円/Kg	→	1,200円/Kg

*「銅相場価格」はJX金属から公表されている日本国内の銅価格です。



通期 営業利益 8/10発表		△5億円
変動要因	8/10発表に織り込んだ下期販売回復の遅れ	△3億円
	銅価格の上昇	△2億円
	電力単価高騰	△1億円
	調達資材コスト上昇	△1億円
	電力単価高騰分の価格反映・コスト削減	+2億円
8/10発表からの変動要因 計		△5億円
通期 営業利益 11/10発表見通し		△10億円

2021年度 → 2022年度 通期損益差異 (連結ベース)



(百万円)	2021年度 実績	修正見通し	差異 (2021年度→ 2022年度)
売上高	20,558	17,700	△2,858
うち 車載電池用銅箔	13,589	11,600	△1,989
うち 回路基板用銅箔	6,969	6,100	△869
営業利益	1,004	△1,000	△2,004
経常利益	976	△1,200	△2,176
親会社株主に帰属する当期純利益	848	△1,100	△1,948
EBITDA	2,278	200	△2,078

<参考> 業績見通しの前提

	FY2021 実績	FY2022 修正見通し
生産数量 :	11,936ト>	8,700ト>
銅相場価格* :	1,136円/Kg	1,200円/Kg

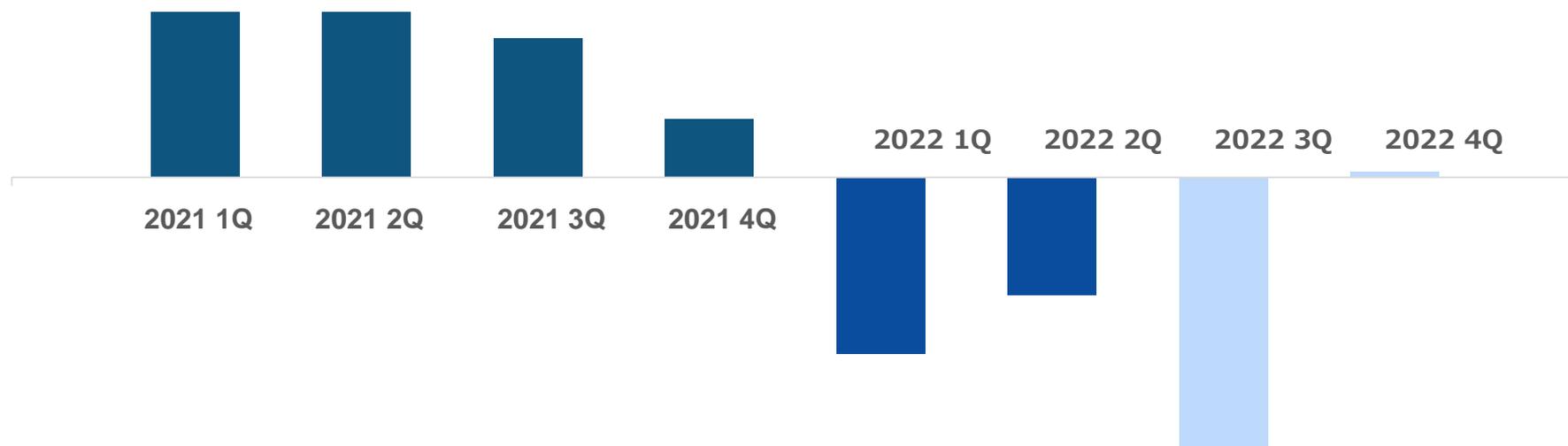
*「銅相場価格」はJX金属から公表されている日本国内の銅価格です。



2021年度 営業利益		10億円
変化影響	一部主要顧客における販売シェアダウン	△4億円
	製品価格低下	△2億円
	顧客生産抑制に伴う需要減	△8億円
	電力単価高騰	△7億円
	米国工場設備改造に伴う数量減・設備故障	△2億円
	銅価格差	△1億円
	電力単価高騰分の価格反映・生産効率化・歩留改善等	+4億円
	2021年度と2022年度の損益差異	△20億円
11/10発表見通し 営業利益		△10億円

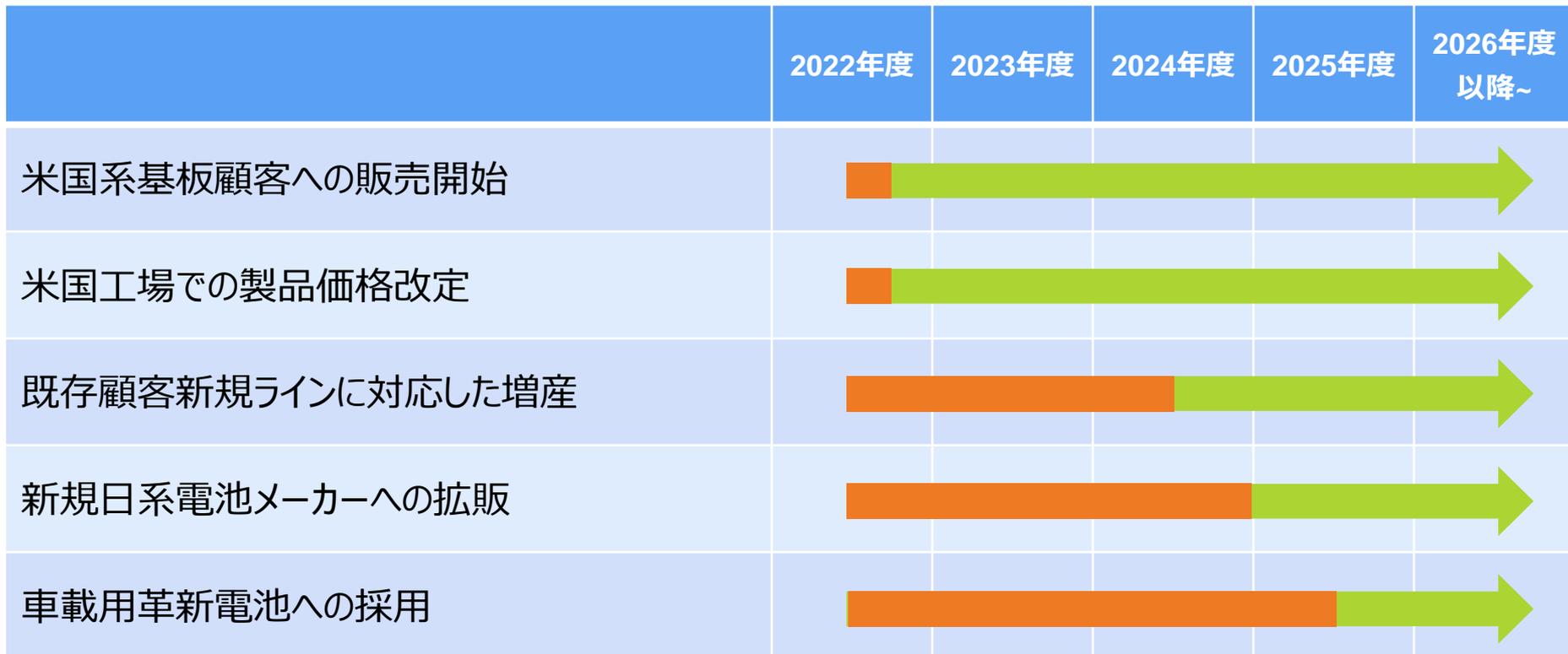


- 上半ばより円安の影響で日本国内の銅建値が上昇
- 第4四半期以降、顧客生産抑制緩和による販売増と電力単価高騰分の価格反映、生産効率化・歩留改善等により黒字確保



- 日本国内で電力価格反映の交渉をスタート
- 既存顧客、新規顧客共に新規案件に向けたサンプル供試を継続
- 操業の効率化により固定費圧縮等を引き続き実施

取組中
 収益化見込時期





次回発表予定日

2023年2月10日 (金)



Contents

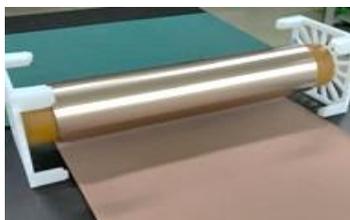
1. 2022年度 Q 2 決算概要
2. 2022年度通期業績見通しの修正
3. 参考資料

2021年度 製品別売上構成

回路基板用銅箔

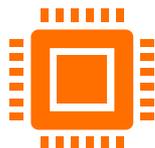
HL・Seed箔

密着性・低損失・高強度



用途

フレキシブルプリント配線板、
半導体パッケージ基板



主要最終製品



5Gスマートフォン



5G通信
基地局 等

車載電池用銅箔

YB箔

高引っ張り強さ、高伸び率



用途

リチウムイオン二次電池 (LIB)



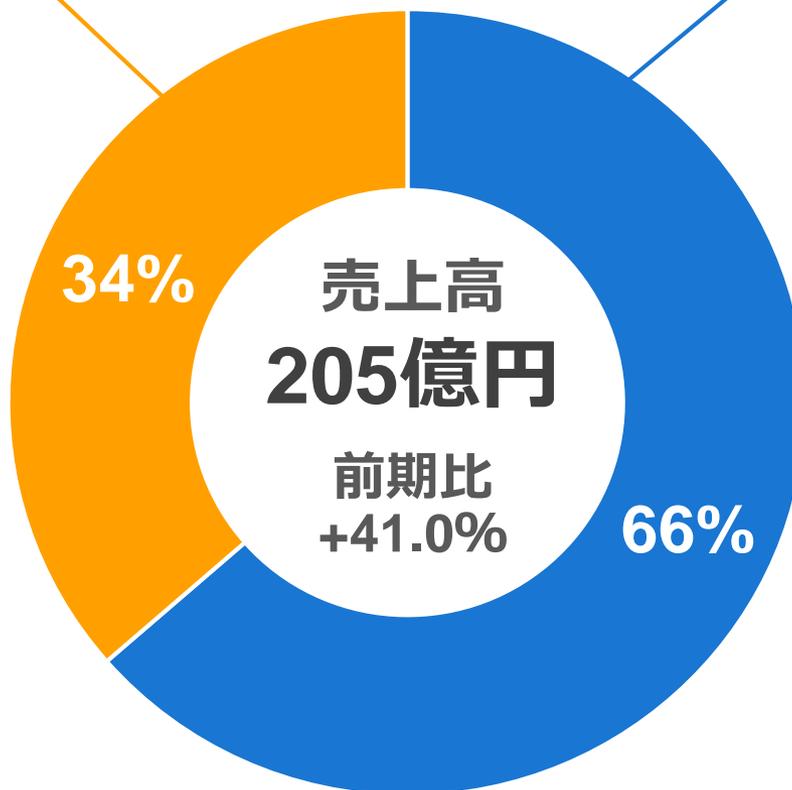
主要最終製品



EV



HV



EBITDA¹ 22億円
EBITDAマージン 11.1%

経営成績の推移（四半期・連結ベース）

(百万円)	FY2021 Q1	FY2021 Q2 (A)	FY2021 Q3	FY2021 Q4	FY2022 Q1	FY2022 Q2 (B)	前年差 (B - A)
売上高	4,895	5,176	5,397	5,088	4,419	4,356	△ 820
うち 車載電池用銅箔	3,274	3,381	3,463	3,469	2,729	2,965	△ 416
うち 回路基板用銅箔	1,621	1,794	1,933	1,619	1,690	1,390	△ 404
売上原価	4,329	4,599	4,860	4,737	4,426	4,252	△ 347
売上総利益	566	576	536	351	△7	103	△ 473
売上総利益率 (%)	11.6%	11.1%	9.9%	6.9%	△0.2%	2.4%	△8.8%
販売費及び一般管理費	255	263	269	237	330	332	68
販管費比率 (%)	5.2%	5.1%	5.0%	4.7%	7.5%	7.6%	△2.5%
営業利益	311	313	266	113	△337	△228	△541
営業利益率 (%)	6.4%	6.0%	4.9%	2.2%	△7.6%	△5.2%	△11.2%
経常利益	283	322	268	101	△318	△264	△586
当期純利益	196	242	192	216	△294	△315	△557
減価償却費	303	314	318	337	307	310	△ 4
EBITDA	614	627	585	451	△29	81	△545
EBITDAマージン (%)	12.6%	12.1%	10.8%	8.9%	△0.7%	1.9%	△10.3%
生産トン数	3,053	3,181	3,073	2,627	2,074	2,172	△1,009

Denkaiグループ ESGへの取り組み

Environment

xEVの普及で、脱炭素社会の実現へ

当社では、車載電池用銅箔の供給及び高品質化を通じ、車載用リチウムイオン電池とxEVの普及に寄与し、**脱炭素社会、持続可能な社会の実現に貢献**いたします。

取り組みを通じて特に貢献可能なSDGsの目標



当社グループの銅材料は、**リサイクル銅100%**を使用しています。当社グループは、製造過程で発生する銅箔屑もリサイクルしています。

銅原料
リサイクル銅
100%



製造過程の
銅箔屑
再利用

取り組みを通じて特に貢献可能なSDGsの目標



Social

CSR年間活動

当社は社会貢献のため、CSR活動に積極取り組んでおります。工場周辺のゴミ拾い、ペットボトルキャップのリサイクル、パトラン活動、社会福祉施設からのパンの購入等を行っており、今後も様々な活動を通じ、地域社会から信頼され、共に発展できる企業を目指します。



取り組みを通じて特に貢献可能なSDGsの目標



Governance

健康経営（健康優良企業認定 銀の認定取得）

当社は健康経営を目指し、2022年6月7日に健康優良企業認定において銀の認定を取得しました。今後も、金の認定を目指し、社員の健康と安全に配慮した働きがいのある職場活動を創出していきます。

取り組みを通じて特に貢献可能なSDGsの目標



この資料の取扱いについて

本資料は、日本電解株式会社（以下「当社」といいます）及びその連結子会社の企業情報等の提供のみを目的として作成されたものであり、日本、米国、その他の地域における有価証券の販売の勧誘や購入の勧誘を目的としたものではありません。

本資料には、現在の予定、推定、見込または予測に基づく将来に関する記述が含まれています。この将来に関する記述は、本資料発表日現在において利用可能な情報をもとに、当社経営者が判断した内容に基づいております。将来に関する記述には様々なリスクや不確実性があり、様々な要因の変化等により、この資料に記載の内容またはそこから推測される内容と大きく異なることがありますことをご了承ください。



日本電解株式会社

Nippon Denkai, LTD.